

クラシック音楽を中心とした音楽科経営

千葉県立〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (音楽)

1 はじめに

本校は各学年7クラスの普通科の高校である。芸術科目については、1～2年次は音・美・書からの選択で、3年次文系生徒は、芸術・数学・英語・情報・古典の中からの選択である。2年間もしくは3年間音楽を学習することになるので、教える側も2カ年計画で授業内容を検討している。生徒は明るく朗らかな生徒が多い反面、学習意欲はやや低く、基礎学力の定着も今一步である。芸術科目の選択に関しては、音楽を希望する生徒が圧倒的に多く、全員が第1希望で選択している。

本校に赴任して9年目になるが、少しずつ生徒に変化がみられるようになってきた。その理由の1つとして、教材の選定方法を変えたことが考えられる。当初は生徒の興味・関心を高めるために、J-POPや中学校の合唱曲を使用していたが、これらの教材には、授業の規律やしつけに関する指導に時間がかかるという課題が見られた。そこで、より芸術性が高い授業を行うためには、クラシックギターを取り入れることが効果的だと考え、学習内容の転換を図った。まず、自分自身がクラシックギター教室に通い始めた。そこでのレッスンは私にとってすべてが新鮮で、今まで見よう見まねの我流で教えてきた自分を深く反省した。そして授業の内容には、自分自身が受けたレッスンの内容を、積極的に取り入れた。

また、それと並行してクラシック音楽のDVDやTV番組の鑑賞活動を増やした他、芸術鑑賞会においてはニューフィルハーモニーオーケストラ千葉の生演奏を聴くなど、様々な音楽に触れる機会を設けた。

これらの取組を継続していくうちに、生徒の音楽の授業への姿勢が変わってきた。これは、多くの芸術作品に触れることで、意欲が高まってきたのではないかと考えるが、詳細については以下に記述する。

2 研究内容

今回の研究では、主にクラシックギターの授業での扱いをメインとしているが、前述したとおり、鑑賞活動や芸術鑑賞会をとおして変わっていく生徒の姿をまとめていきたい。

- (1) 実践例その1 クラシックギターの奏法を学び、表現力豊かに演奏する。
～レガートで弾けるようにしよう～
- (2) 実践例その2 クラシック音楽の名曲に親しむ。
～人物のエピソードを通して～
- (3) 実践例その3 芸術鑑賞会での取組
～生で聴く「のだめカンタービレ」音楽会～

- 3 実践例その1 クラシックギターの奏法を学び、表現力豊かに演奏する。
～レガートで弾けるようにしよう～

(1) 教材・教具について

ア ギターの世界 (ギタルラ社)

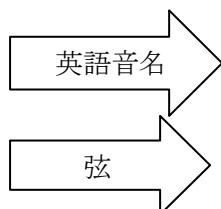
私自身がギター教室で使用したもので、図と説明がわかりやすく、取り扱い曲も適切なので、そのままテキストとして用いている。簡単なギターの練習曲であるが、楽典についても学ぶ内容がたくさん書かれている。生徒は楽譜を見ないで弾く傾向があるので、必ず楽譜を見て弾かせるようにしている。

イ チューナー

チューナーは今年から個人で購入させたが、1年経っても使い方がわからない生徒が多数いるのが現状である。例えば、3弦の開放弦のGを合わせる時にAの音が低く反応した場合でも、低いからより上げてしまう生徒がいる。A(ラ)はG(ソ)より高いので、低く反応した場合でも下げなければならないことを理解するまでにかなりの時間を要するが、まずは英語音名を教え、なるべく一緒に考えながらチューニングするようにしている。ピッチを442Hzにする説明も同時にしておく。以前は、全てのギターを私が一人でチューニングして、糸巻きを生徒に触らせることはなかった。それが、生徒がチューニングするようになってから、糸巻き部分のトラブルは増えたが、チューニング時間は短縮された。何事も生徒が自分で考え主体的に行動するのが一番なのだと実感した。チューニングについてはまだまだ未熟であるが、少しずつ自分でできるように指導していきたい。

チューニングの仕方

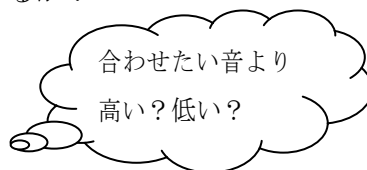
高い→下げる→時計回り、低い→上げる→反時計回り



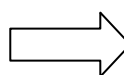
高い→下げる→時計回り、低い→上げる→反時計回り											
ミファソラシドレミファソラシドレミ											
E F G A B C D E F G A B C D E											
6		5		4		3		2		1	

- ① チューナーのセットの仕方
(C)クロマティックモード
4 4 2Hz
に設定する。

- ② 何の音が反応しているか？



- ③ 3弦(G)を合わせる場合



低いから上げない。ラはソより高いので下げる。

ラより下がりソになったがまだ高いので下げる。

完成!!

(2) 研究方法

- ア テキストの中からギター課題を10まで設定し、その練習段階に応じた適切な目標を定め、確実にステップアップを図れるようにする。

課題1 「アポヤンドの練習」

- ・足台を使い、左足の太ももにギターを乗せ、サウンドホールが体の中心にくるように気をつけて構えられるようにする。
- ・右手の中指と人差し指を交互に動かして、次の弦に触れるまで強く弾けるようにする。



※ 太ももの上にギターを乗せるのが難しい。

課題2 「たこたこあがれ」

- ・左手の親指と2の指（中指）でネックを挟むように持てるようにする。
- ・左手の2の指は立てて、フレットのそばを押さえられるようにする。



※ 左手の親指の位置を何度も確認させる。写真のように持つには時間がかかる。

課題3 「二重奏」

- ・楽譜を読めるようにする。（2分音符，4分音符，8分音符の違いを理解する）
- ・友達と合わせて二重奏ができるようにする。

課題4 「二つの音階」

- ・同一線上の音は指を残して弾けるようにする。 例) ド→レ， ファ→ソ

課題5 「月の光に」

- ・ビブラートに挑戦する。まずはハイポジションでビブラートの練習をして、曲中でできるようにする。

課題6 「ハ長調の音階」

- ・フレットを覚える→左手の正しい指使いを覚える→右手が正しい指で弾けるようにする。

課題7 「メヌエット」

- ・3拍子のリズムに合わせて弾けるようにする。
- ・レガートで弾けるようにする。(音と音の隙間を空けない)



※ ド→レを弾くときは人差し指を残させる。指の形に気をつけさせ、レガートで弾くことを心がけさせる。

課題8 「戦いのマーチ」

- ・アルアイレ奏法を練習する。アポヤンドとの違いを習得できるようにする。

課題9 「女神さま」

- ・伴奏パターン(コード進行)を覚えて弾けるようにする。

課題10 「バラード」

- ・ギターの独奏曲を弾けるようにする。
- ・メロディーと伴奏のバランスに気をつけて弾けるようにする。

イ 鑑賞を適宜取り入れることで、弾き方のイメージを確立させる。

- ・実際に映像を観て真似ることにより、技術の向上を目指す。

ウ 楽譜から基本的な楽典を学ぶ。

- ・楽譜を見て弾く習慣をつけさせ、演奏上必要な音符や楽語について学ぶ。

10 **メヌエット***
J.Ph. クリーガー
(ドイツ)1649-1725

新しい音

Andante

mf

mf

mp

mp

Fine

D.C.

※ 必ずテキストを見て弾かせるようにしている。

- 1 日時 平成24年10月25日(木)第2限
- 2 学級 第1学年1・2組(男子10名 女子15名 計25名)
- 3 学級観

比較的音楽が好きな生徒が多く、落ち着いた姿勢で授業を受けることができる。遅刻や忘れ物をする生徒は少なく、授業を受ける姿勢は良好である。生徒同士の仲が良く、お互いに教え合う姿が見られる。本校では、芸術は3科目の選択で、音楽Ⅰが4講座、音楽Ⅱが3講座、音楽Ⅲが1講座になっているが、その中でも授業を円滑に進めるための条件すべてが揃った模範的なクラスである。ただ、目標を達成してしまうとそれ以上努力しない生徒が多いので、常によりよい音を目指して努力できるように指導していきたい。

4 題材

クラシックギターの奏法を学び、表現力豊かに演奏する。

ーレガートで弾けるようにしようー

5 教材

・メヌエット J.Ph. クリーガー

6 題材設定の理由

音楽の基本のひとつは歌うことであるが、何の楽器で歌うかにより、ポイントが違ってくる。ピアノで歌うのが得意な人はピアニスト、バイオリンで歌うのが得意な人はバイオリニストであるように、ギターを通して歌うことが、ギター演奏の重要なポイントとなる。しかし、それらの楽器で歌うためには、それなりの技術が必要となる。ギターで歌うことも、簡単なようで実は高度な技術を要する。指の動きを最小限にして無駄をなくし、音と音の隙間を空けないようにつなげて弾かせたい。クラシックギターの技術を習得させると同時に、技術を基に自己表現をするのに適した教材であると考え、この題材を設定した。

また、ギターを始めて半年が経ち少し慣れてきたので、ハーモニクスで授業開始と終了のチャイムを演奏したり、コードで号令をすることにより、ギターへの興味を広げていきたい。

7 指導計画

- 1 時間目 ギター各部の説明、構え方、弾き方の説明
- 2 時間目 課題1 アポヤンド奏法の練習
- 3 時間目 課題2 「たこたこあがれ」の説明と練習
- 4 時間目 課題1, 2 個人指導を兼ねたテスト
- 5 時間目 課題3 「二重奏」の楽譜の読み方と練習
- 6 時間目 課題3 「二重奏」の練習と課題4 「二つの音階」の説明
- 7 時間目 課題4 「二つの音階」の練習
- 8 時間目 課題3, 4 個人指導を兼ねたテスト
- 9 時間目 課題5 「月の光に」パート練習
- 10 時間目 課題5 「月の光に」合わせ練習

- 11 時間目 課題6 「ハ長調の音階」の練習
- 12 時間目 課題6 「ハ長調の音階」の練習
- 13 時間目 課題5, 6 個人指導を兼ねたテスト
- 14 時間目 課題7 「メヌエット」の練習
- 15 時間目 課題7 「メヌエット」の練習 ※ 本時
- 16 時間目 課題7 「メヌエット」の練習
- 17 時間目 課題8 「戦いのマーチ」、アルアイレ奏法の説明
- 18 時間目 課題8 旋律, 伴奏の練習
- 19 時間目 課題7, 8 個人指導を兼ねたまとめと発表
- 20 時間目 課題9 「女神さま」旋律練習
- 21 時間目 課題9 「女神さま」伴奏練習
- 22 時間目 課題9 「女神さま」合わせ練習
- 23 時間目 課題10 「バラード」の練習
- 24 時間目 課題10 「バラード」の練習
- 25 時間目 課題9, 10 個人指導を兼ねたまとめと発表

8 評価規準

観点① 音楽への関心・意欲・態度	観点② 音楽表現の創意工夫	観点③ 音楽表現の技能
<p>(ア) クラシックギターの音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(イ) 様々な演奏形態(小アンサンブルなど)に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>(ア) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽器の音色や奏法の特徴を生かしたり、音楽表現を工夫したりし、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>(ア) 楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身につけ、創造的に表している。</p>

9 本時の指導(第15時)

(1) 目標

- ア 歌唱と器楽を結びつけて考え、歌うように演奏する。
- イ レガートで演奏するための指の技術を身につける。
- ウ 後半の合奏では、お互いの音を聴き合いながら演奏する。

(2) 展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	チューニング チャイム 号令	<ul style="list-style-type: none"> 各自チューニングをする。 ハーモニクスの技法を使い全員でチャイムを演奏する。 当番の生徒がCGCのコードを使い号令をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に説明し、必要に応じて生徒を補助する。 ギターの面白さを楽しめるようにする。
展開 30分	前時の復習 課題7 「メヌエット」	<ul style="list-style-type: none"> 課題1, 4, 5, 6は基礎練習として毎時間復習する。 譜読みをする。 旋律の階名唱をする。 指使いの説明をする。 歌うように弾いてみる。 全体練習 ↓ 個人練習 ↓ 全体練習 	<ul style="list-style-type: none"> 構え方、持ち方、指の使い方の見本を見せ、真似させながら正しい奏法へと導く。観点①—(ア) 段ごとに区切って練習をする。特に、2段目のリズムに注意する。 階名唱により旋律の流れを意識させる。 ソルフェージュ力を高める。 指に無駄な動きが無いように、指使いを丁寧に説明する。 歌い方と弾き方の違いを認識させ、歌うように弾く練習をする。 普通に弾くときと、歌うように弾くときの違いは何かを考えさせる。観点③—(ア)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> チャイム 号令 	<ul style="list-style-type: none"> クラス合奏をする。 次回の予告をする。 ハーモニクスの技法を使い全員でチャイムを演奏する。 当番の生徒がCGCのコードを使い号令をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 下のパート担当の生徒、残りは上のパートで合奏をして、クラシックギターの響きを体感する。観点①—(イ)

□ 使用楽譜、テキスト

学校教育とグループレッスンのための教本「ギターの世界」アンサンブルを楽しみながら

ギタルラ社 No. 110

改訂版 カルカッシー・ギター教則本 全音楽譜出版社



※ 授業風景

4 実践例その2 クラシックの名曲に親しもう

～人物のエピソードを通して～

(1) 昨年度視聴した曲は以下のとおり (概要)

曲名など	演奏者など	曲名など	演奏者など
愛のロマンス, アルハンブラの思い出	山下和仁	カルメン	レヴァイン
アランフェス協奏曲	村治佳織	ラブソディ・インブルー	バーンスタイン
四季より「春」	ナイジェル・ケネディ	弦楽セレナーデ	小澤征爾
チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番	キーシン	ドキュメンタリー番組	佐渡裕
ショパンピアノ協奏曲第1番	ユンディ・リ	無伴奏チェロソナタ	ヨーヨー・マ
ラフマニノフピアノ協奏曲第2番	辻井伸行	ボレロ	ブラスト
ワルトビューネ	ドミンゴ	ボレロ (バレエ)	ベジャール(振り付け)
ワルトビューネ	バレンボイム	白鳥の湖	キーロフ・バレエ
ベネディクト16世バースディライブ	ドゥダメル	ゴルトベルグ変奏曲	グレン・グールド
神に捧げる国～バチカン市国～	世界遺産	誰も寝てはならぬ 他	三大テノール
カラヤンドキュメンタリー番組	カラヤン	トスカ	マリア・カラス
カルメン	カラヤン	お箏の世界	後藤すみこ

なるべく前後で同じような曲を聴かせ「どちらが好きか」聴き比べをさせてみた。そして自分の意見を持たせることで、少しずつクラシック音楽への興味を深めていった。最近では、早く来た生徒が自然にノートを配り、準備をして授業開始を待つというスタイルに変わってきた。板書事項は、演奏者の人物紹介や楽曲解説について2～3項目ぐらいに絞るようにしている。そしてノートは毎時間提出させ、必ず確認してコメントを書いている。とても時間がかかる作業だが、生徒はコメントを楽しみにしており、私自身も生徒とのコミュニケーションの場として活用している。

(2) 生徒の感想の一部

レナード・バーンスタインっていう人は、指揮者も作曲者もピアニストもやっ てすごいなあと思いました。	指揮者で有名なので、指揮しかならないと思っ ていたら演技の指導もしていてすごいと思っ た。美へのこだわりがすごいと思っ た。	ピアノを弾く人によって同じ曲でも 違う曲に聞こえる。
指揮者って、ただ手を適当に振っている ように見えるのに、その指揮が分かるオー ケストラはすごい。	言葉を言わないで物語りが出来るなんてすご いと思う。この体のやわらかさを僕野球に生 かしたい。	こういう番組は一度も見たことがな かったので面白かった。
ギターは1つなのに、何であんなにたく さんのオーケストラの人たちの中で目 立てるのかなあと思いました。ギターが すごく上手で手もきれいでさすがプロ だと思いました。	村治さん演奏がすごく、オーケストラに負けて なくてカッコよかったです。ギターから出る音 であんなにも響くんだと思いました。マイクも つけないであの音量はすごいです!!	前回のドミンゴとは違う「カッコよ さ」がバレンボイムにはありました。 またワルトビューネにも行ってみたい と思いました。指揮者のパフォーマンスもユニークで最高でした。
ビブラートは弦をゆらせばできるの か?授業で学びたい。	みんな外国人なのに、一人だけ日本人ですご いと思っ た。	将来行ってみたいと思いました。も っと調べてみたいです。
力強いけど、フルートとかの音でやわら かくなった。	いっしょうけんめいやっている人の顔が こい。	想像していたクラシックとは全くち がいに、テンポが早い音楽だった。
自分はユンディ・リより、前回見たキー シンの方が印象に残っており、そっちの 方が良かった。髪の毛の動きと音楽がマ ッチしていた。	ユンディ・リのピアノの方が好きです。キー シンとは違ったよさがあると思っ た。ユンデ ィ・リの弾くピアノはカブよなのに、なんか音 色がやさしくて聞きやすかった。	思っていたフィンキとはちょっとち がって私はスキでした。またスー ツではなく私服ってところがカッコよか ったです。
クラシックって、なんか聴き方とか大変 だと思っ たけど、外国とかではこんな にも自由にクラシックが聴けて、見てて 楽しかった。	日本もこんな風に自由な感じで、難しがらずに 聴けたらいいなあと思っ た。サラ・チャンも笑 ってたし、アンコールなんか会場にいる全員 が音楽しているようでワクワクしてきた。	本当に目がみえないのか?と思う 位、きれいな演奏でした。目がみえ ないのに指揮者の位置をどうやっ て覚えたのだろうか?
外国の音楽会って、日本と違ってフリー ダムで本当に楽しそうでうらやましい です。	指揮より歌っているドミンゴの方が好き。 誰も寝てはならぬの歌声がすごかった!オー ケストラに負けない声の大きさだった。	右手のつめがすごくきれいだった。 ギターと顔のきょりが近い。 自分にも弾けるのか?不安だ。
ちゃんと本番前のリラックス法(?)を決 めているんだなと思っ ました。コンサ ート会場も日本のホールとかと違って、 野外で開放感があった。	成功する人は、過去こつらい思いをし、それを 乗り越えた人が多いと思っ た。また、全てにお いて完ペキを求める姿には、尊敬の念を持っ た。	自分もバレンフィルという言葉じ たい知らなかったのに、それを小学 校から夢を持っていて、それを実現 してすごいと思っ た。
クラリネットの音がきれいで、部活でも こんな音が出せるようになりたいです。	有名な曲もいろいろけど、マイナーな曲も聴いてみ たいと思っ た。	同じことのくりかえしなのに、なん かおもしろい。
音が変わるごとに、顔の表情を変えて て、すごくインパクトがあった。	指揮者として天才とかいろいろ言われていて も、疲れているところを見ると、やっぱり人間だ なあ、と思っ た。	どんな演奏がうまくても、お客さ んへの見せ方や周りの人へ合わせる ことも大切だと感じた。
今日は一番かんどうした。	すごすぎて何を書いたらいいかわからない!	リハーサルから真剣だった。

5 実践例その3 芸術鑑賞会での取組 ～生で聴く「のだめカンタービレ」音楽会～

(1) 当日のプログラムについて

- ・演奏曲目については、私自身が原作とドラマ、映画の全てを観て研究し、生徒にもアンケートを取った上で、楽団の方と何度も打ち合わせをしてプログラムを作成した。



(2) 生徒の感想、芸術鑑賞会のプリントより一部抜粋

- ・初めて生の演奏を聴いて感動した。迫力がすごかった。初めてちゃんとしたホールで聴けたので良かった。(多数)
- ・プロの演奏を生で聴く機会はめったにないから貴重な経験が出来て良かった。(多数)
- ・音楽の授業より生のオーケストラすげー。・音楽の授業で聴くのと全く違った。
- ・あんまりこういう経験がないので、少し緊張しました。(複数)
- ・普段このようなものを身近で聴くことがないのでいい経験になった。
- ・このような機会は滅多にないのですごく嬉しかったです。
- ・クラシックをあんまり聴かないので、すごくいいなと思いました。
- ・今日クラシックを聴いて、J-POP以外の音楽を初めていいなと思った。自分の中で音楽の幅が増えて良かった。
- ・たまにはこういう音楽もいいと思った。
- ・久しぶりにちゃんとした音楽を聴いて感動した。
- ・自分も吹きたくなった。・また音楽をやりたいと思った。・またホルンを吹きたくなった。
- ・吹奏楽部はプロとコラボしてすごい。羨ましい。私もやりたかった。(多数)
- ・吹奏楽って楽譜の指示が細かいから、短いリハでコラボしやすいんだろうなと、ちょっと羨ましくなった。文化部としては羨ましい限りです。(演劇部)
- ・まさに至福の時でした。・ドラマの中では短かった曲も生で聴くとこんな長いんだーって思った。
- ・こんなにいいやつなら高い金払っても損じゃないと思った。
- ・ピアノのチューニング(調律)を初めて見た。(吹奏楽部)

6 結果と考察

- (1) 実践例1でクラシックギターの奏法を中心にした学習を続け、根気強く指導した結果、生徒の授業への取組や態度が変わってきた。以前は、軽音楽感覚の音楽選択生徒が多く、昼休みはギター目当ての生徒のたまり場となって5限授業開始が大変であったが、そのような生徒も減り、ギターの破損も少なくなった。また、クラシックギターを学んだのちにコードを教えたところ、生徒は喜んで弾き、最初からコードをやるより学習効果が高くなった。
- (2) 実践例2では、教科書の鑑賞教材とは別に、クラシック音楽のDVDやTV番組を15～20分程度見せ続けた。この取組を行う以前は、遅れてくる生徒が多かったが、鑑賞活動が定着してからは音楽への興味関心が高まり、授業開始時にはノートを開いて待っている状態へと変わっていった。これは、有名な曲を中心に選曲したことが成果として表れた。
- (3) 実践例3の実施にあたっては、職員間の共通理解を得るまでにさまざまな紆余曲折があった。特にラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第2番全楽章は、長さの問題から職員から不満の声が聞こえてきた。しかし、それらの心配は杞憂であった。生徒の感性はとても柔軟であり、演奏会后この曲に対して興味を持った生徒が増えたと実感した。
- (4) 以上の取組により、ここ数年で生徒に変化が見られるようになった。今後の課題は、これらの実践を継続しつつ、さらには日本の叙情歌を歌い継ぐ取組を行うことである。名曲を知らないまま大人になってしまうことがないように、しっかりと伝えていきたい。日本人として叙情歌を歌い継いでいくことは、音楽科教育の重要な使命の一つであると認識している。また、学校教育の場においては校歌指導にも力を注ぎたい。毎朝始業前に、吹奏楽部が歌った校歌を校内放送で流している。毎学期の式典では、自ら指揮をして校歌指導をしているが、なかなか成果を感じられない。校歌指導についても、今後の根気強い指導が必要だと考えている。

7 おわりに

今回の研究をとおして、改めてクラシック音楽の魅力を認識できた。決して生徒が悪いのではなく、教員のアプローチの仕方によりこうも生徒が変わるのだということを、強く実感した。また、過日、本校吹奏楽部の卒業生の保護者からいただいたお手紙に、「これからも音楽が好きな生徒を育ててください。」と書かれていた。私の意図が伝わっていたようで嬉しく思った。今後とも努力精進し、音楽をとおして生徒を育てたいと考えている。さらなるご指導とご鞭撻のほどを、よろしく願い申し上げます。最後になりますが、この結論に至るまでお世話になった前指導課指導主事の小川先生、現指導課指導主事の植草先生、教科指導員の君津高校青木先生、研究員の鈴木先生、大木先生、クラシックギターの又吉康之先生に深く感謝申し上げます。